

WHO（World Health Organization：世界保健機関）

WHOは、1946年にニューヨークで開催された国際保健会議で採択され、61カ国の代表によって署名された「世界保健機関憲章（Constitution of the World Health Organization）」に基づき、1948年に国際連合の専門機関として設立された。なお、WHOは英語略称であり、フランス語、スペイン語等ではOMSと略称される。日本は1951年に加盟している。

本部はジュネーブ（スイス）にあり、現在は194の国と地域が加盟している（2025年1月現在）。

WHOの最高意思決定機関は、全加盟国・地域の代表で構成される「世界保健総会（World Health Assembly: WHA）」であり、加盟国は6つの地域事務局（アメリカ、アフリカ、南東アジア、欧州、東地中海、西太平洋）のいずれかに所属する。世界各地に約150のWHO事務所があり、8,000人以上の職員を有している。

WHOは、「健康」を「身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態であり、単に病気あるいは虚弱の存在しないことではない」（WHO憲章前文）と定義し、人種、宗教、政治信条や経済的・社会的条件によって差別されることなく、最高水準の健康を享有することはあらゆる人にとっての基本的人権の一つであると捉え、その達成を活動の目的としている。

感染症対策や保健・衛生上の緊急事態における指導・調整、高血圧、肥満、がんなど多くの疾患に関する国際的なガイドラインの策定などのWHOの活動は、世界各地の800以上の協力研究センターとして指定されている研究施設や大学の研究室、特定の課題に対して世界中から公募で集められた専門家グループなどとの協力体制により推進されている。さらに、妊娠期から高齢期に至るまで、より健康的な生活の実現のため、だれもが必要な時に、必要な場所で、適切で質の高い保健医療サービスを受けられる”Universal Health Coverage: UHC”の実現に向けて、必要となる医薬品及び医療製品の供給を可能にする持続可能な資金調達、医療従事者の人材育成と保護に関する活動に取り組んでいる。

（森 曜子）